

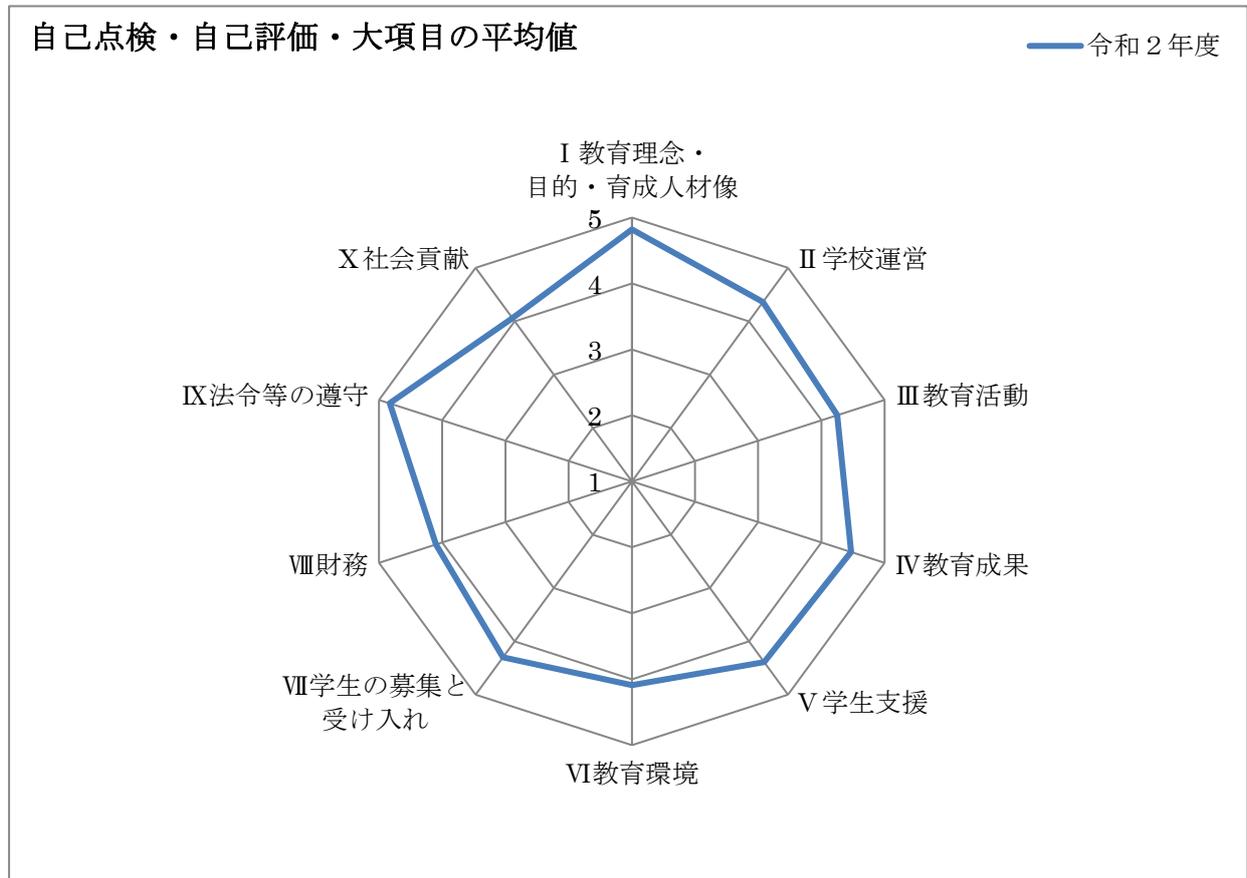
鹿児島県医療法人協会立看護専門学校自己点検自己評価
～令和2年度まとめ～

1. 本校における自己点検・自己評価についての取り組み

本校では、令和元年度の学校自己点検自己評価結果を受け、令和2年度の重点目標に「学生支援の向上」と「職員の自己研鑽」を継続し掲げた。特に教職員間・学校関係者との共有連携を図ること、学生の自己学習能力を高めること、社会人基礎力を高めることに努めた。年度末に活動目標に沿った各自の教育実践や業務を振り返るとともに、学校評価を実施し評価報告書としてまとめた。

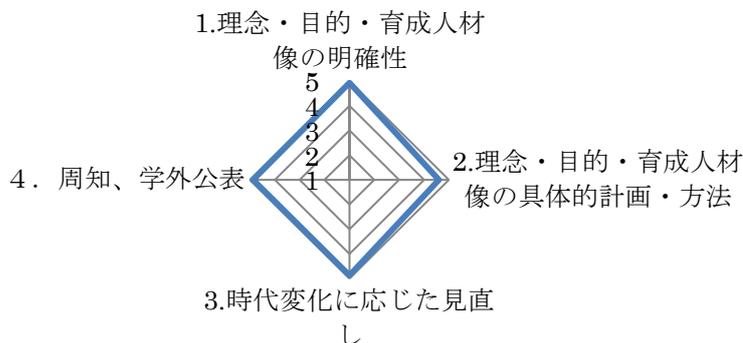
2. 自己点検・自己評価結果（令和2年度）

以下は大項目（I～X）毎にその平均値を図に示した。次に、各領域について評価された数値を点検項目別に集計し平均値を出し、振り返りを行った。



教育理念・目的 育成人材像

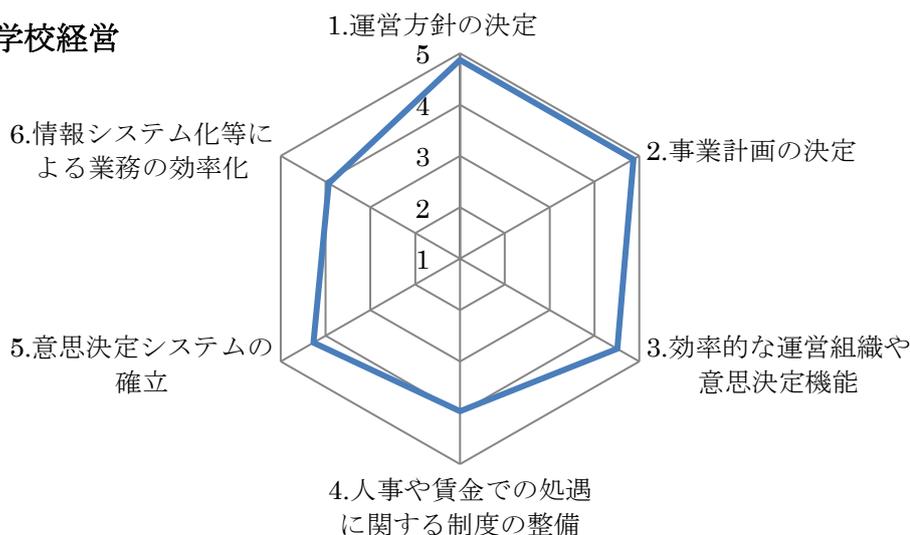
令和2年度



教育理念・目的・育成人材像については、カリキュラム検討会で学生の現状を評価し、社会の諸環境、状況の変化や学生の現実像をもとに整合性や実現可能性を検討した。これらによって学校が目指す「地域で生活するすべての人を対象に看護を実践し活躍できる能力を育成すること」や具体的計画・方法が教職員に、より浸透した。

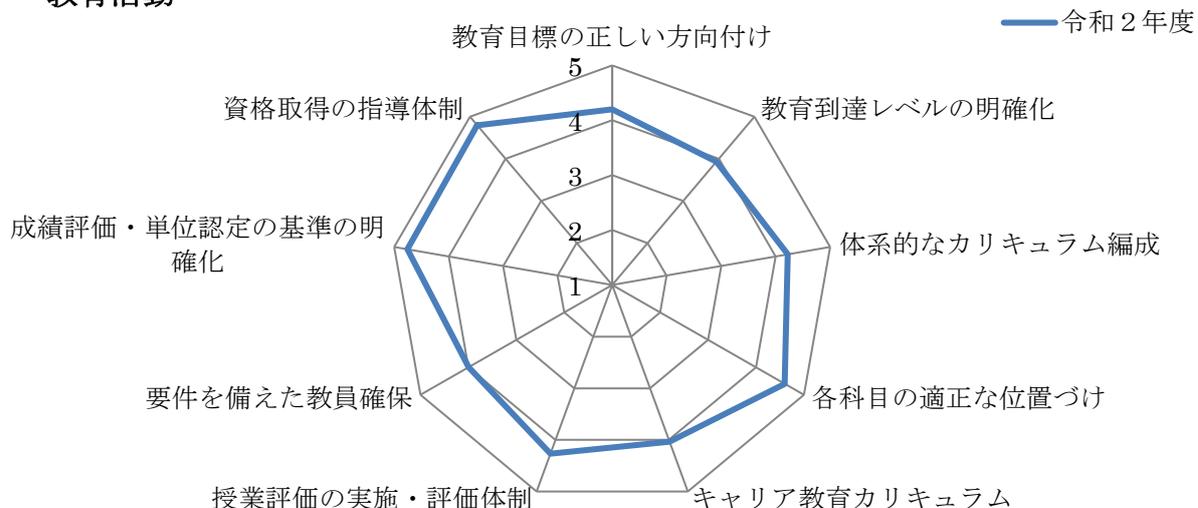
学校経営

令和2年度



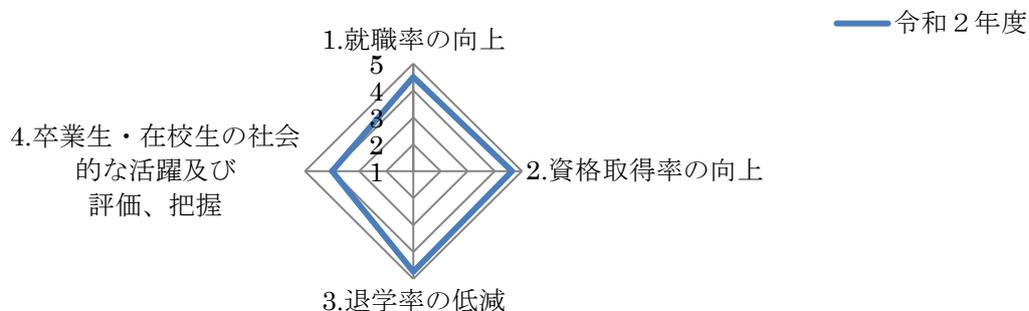
地域に根差した看護職人材育成は本校の設置主体である一般社団法人鹿児島県医療法人協会の重点事業のひとつである。学校は看護師養成所指定規則に則り学校運営方針、組織図、年間事業計画を定め運営している。今年度も学校運営会議・職員会議・教務会議・各係り会議等の定期的開催に加え場や時間を工夫した小会議を行った。コロナ禍の対応で更に煩雑さが増す中、「方針や計画の決定、意思決定機能や意思決定システムの確立、情報システム化」は昨年度より高い数値を示した。特に情報システム化は、継続的な課題となっていたが、コロナウイルス感染拡大防止のためにICT環境の整備を急速に進めることができた。今後は活用力を高め業務の効率化につなげていく必要がある。

教育活動



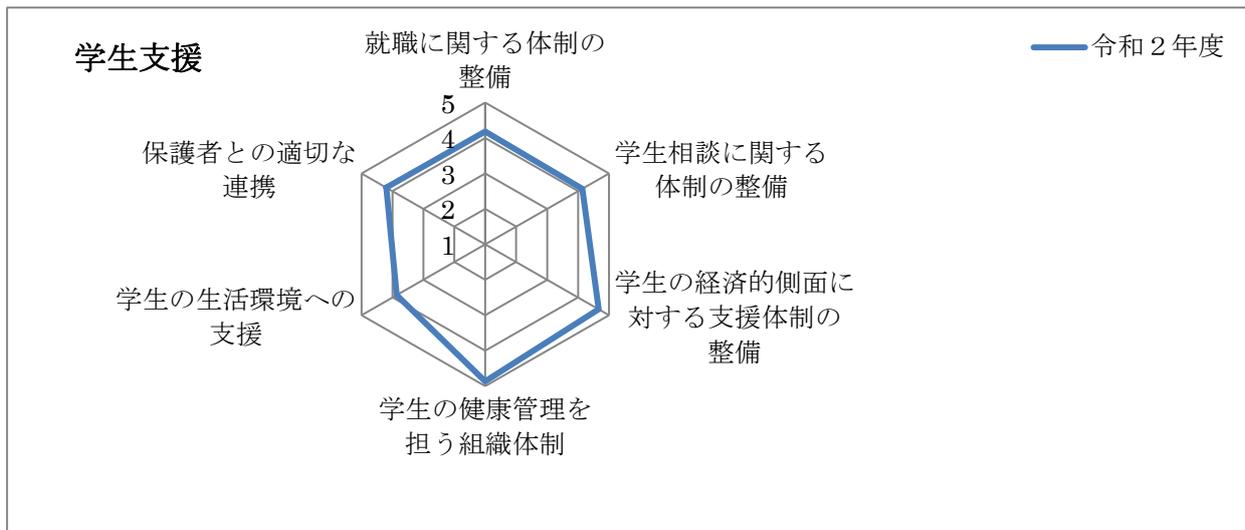
教育活動は前年度に続き安定して高い数値を示した。その中で項目別にみると「教育目標の方向付けや到達レベルの明確化、体系的なカリキュラム編成、キャリア教育カリキュラム」は他の項目よりやや低くなっている。これらは、新カリキュラムを構築していく過程で現行カリキュラムの課題として捉えなおした項目でもあり、今後さらに、教育活動の質向上に努めたい。

教育成果

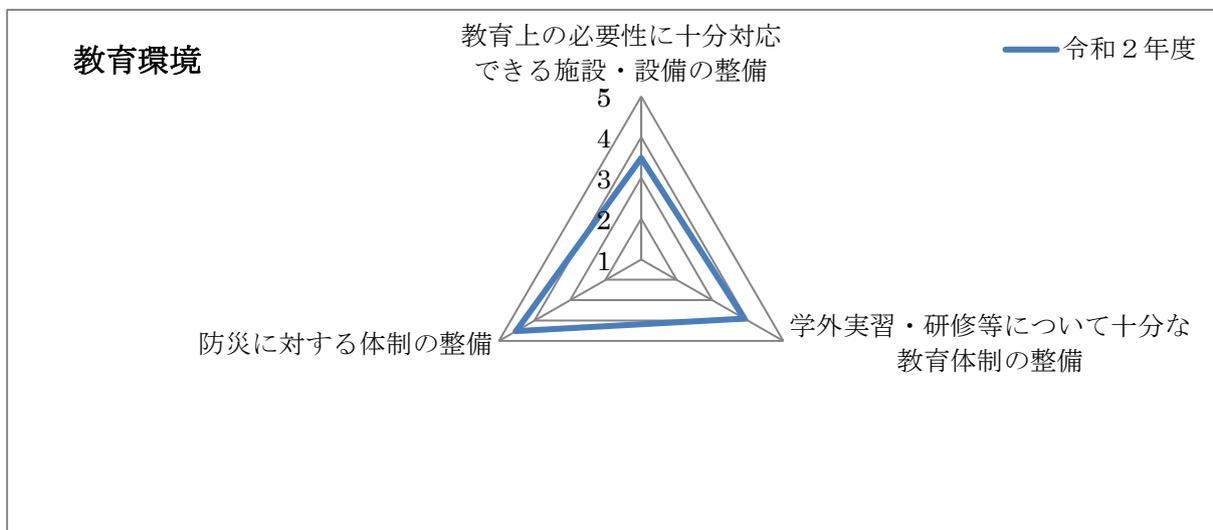


学校は常に、学生の学習内容に対する期待に教育内容で応えることを目指している。過去3年間の卒業生就職者数・就職率データによると、鹿児島県内就業の卒業生を多く輩出し就職率の維持向上が図られている。資格取得の指導は低学年から行う体制をとり、1年次からの履修が資格取得につながることを具体的に明確に伝えている。学生の資格取得につながるサポート体制や方法を個別に評価しながら合格率の維持向上を目指したい。

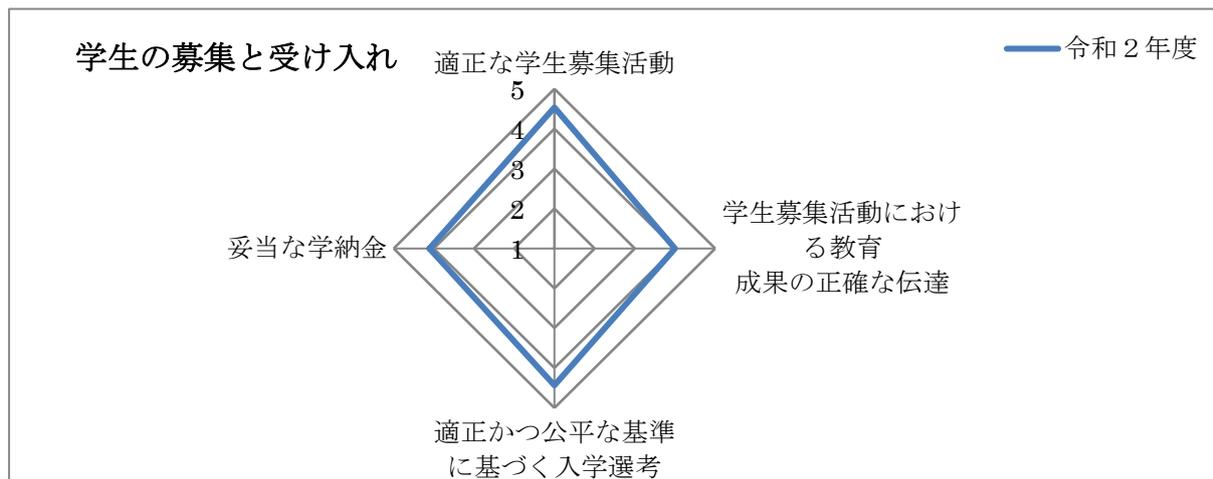
令和2年度入学生、2年生では、早期に状況把握し相談の時間を設けてきたが進路変更のため2名が退学となった。3年生43名は入学から退学者もなく卒業となった。また、卒業後來校する卒業生との交流は継続し悩みや活躍を身近に触れることができている。今後は、就職成果とその推移に関する情報を把握し、就職先との連携・支援体制を整えていければと考える。



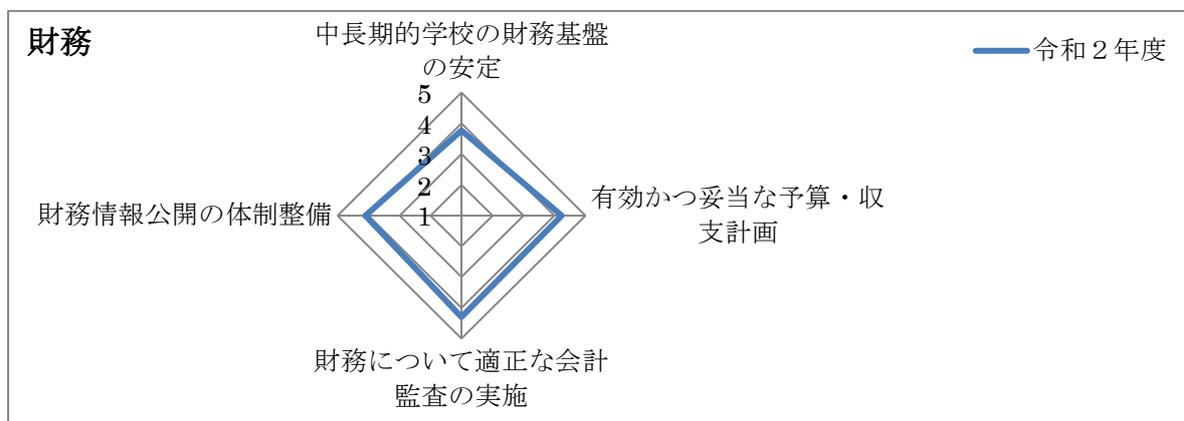
就職に関する体制や学生相談に関する体制、経済的支援体制は整備されている。加えてコロナ感染拡大防止においては、通信費の補助や、実習中に求められる検査費用などの負担を行うなどの学生支援体制を整え対応した。保護者との連携は、成績不振、単位未修得の学生について早め早めに行い対応した。また、コロナ感染拡大防止のために保護者を制限しての行事については文書や映像配信を行うとともに、密を避けての保護者会を別途開催した。単位修得困難者の支援については、個別プログラムによる個別指導を行うが、保護者の理解等課題を残している。



施設・設備の安全点検は規定通り計画実施した。コロナ禍において学外実習は予定通りいかない状況が発生したが関係機関と連携し、臨地実習の機会をできるだけ調整した。数日間でも臨地に行けたことが喜びとなり就職施設を希望するきっかけになった学生もいた。

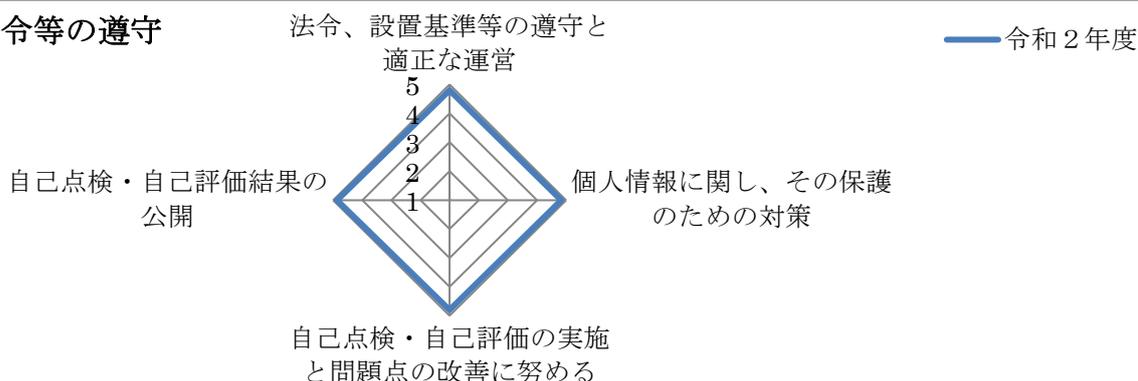


学生募集活動として学校説明会をコロナの影響も考え中止した。オープンキャンパスは感染対策に努め規模を縮小したが例年通りの成果を得た。高校訪問・進学ガイダンス参加等を継続し、志願者等の問い合わせや見学希望にも応じた。しかし、応募者数は減少し定員を確保が困難であった。今後はコロナ過での学生募集活動の工夫を図り定員確保を目指したい。学納金は実習施設の実習費が上がっているが、学生および保護者の負担感を考慮し、増額せず従来の方納制度を継続したい。



年度予算、中長期計画が、目的・目標に照らして立てられており、計画に従って執行されていることを設置主体の総会で承認された。過去3年間の看護専門学校資金収支計算書、消費収支計算書、収支予算書が明示され、財務状況の監査を受けている。事務窓口では財務情報公開している。職務分掌や、組織体制も年度ごとに見直されているため、行政機関における経営的立場では健全に管理運営されているといえる。

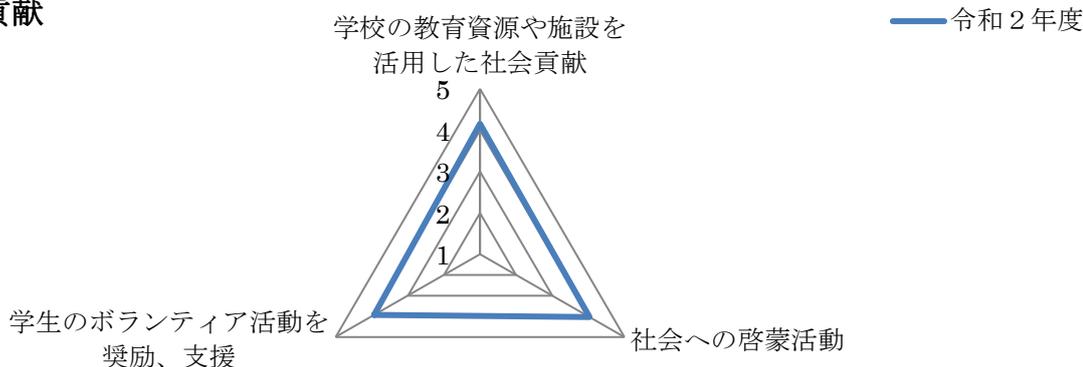
法令等の遵守



看護師養成所指定規則や専修学校設置基準等を遵守した運営を行い、教職員・学生等にも周知した。個人情報に関し、周知し行動化が伴うよう指導を行うとともに、ネットポリス講話を各学年ごとに継続して行った。

学校自己点検・自己評価、学校関係者評価の時期・方法・結果の公表までの取り組みは定着してきた。今後も多方面からの評価を基に問題抽出、解決につなげるように継続していきたい。

社会貢献



指定避難所となっていることや地域のネットワーク会議に参画することで教育機関、校区と連携・交流を拡大していければと考える。コロナ感染症に関連し地域の方との交流においては、学校祭が中止になったり看護学演習の模擬患者役の依頼を差し控えたりした。しかし、学生の自発的取り組みとして、学校周辺の清掃活動を行った。今後も学生の地域に向けて発信、関わろうとする力を支援していきたい。

3. まとめ

令和2年度は、第5次カリキュラムの編成とコロナ感染拡大防止に関連した対応に追われた。その中で学生に対し教育成果をあげ、看護実践の基礎的能力を保障する取り組みは新カリキュラムで求められる能力育成と共通するものである。今年度の代替実習やICT環境の整備を次年度の学校運営や教育活動に活かしていくつもりである。